

小笠原諸島世界自然遺産候補地管理計画(叩き台)概要

構成

構 成		内 容
1. はじめに		小笠原諸島の世界自然遺産への推薦および管理計画策定の背景。
2. 目 的		管理計画の目的を記載。 取組主体は全ての関係者、管理計画の対象は候補地の周辺も含めた小笠原諸島全体とする。
3. 候補地の概要	1) 位 置	「推薦書」に記載している内容とリンク(推薦書と切り離れた冊子としても読めるようにする)。
	2) 面積等	
	3) 総 説	
	4) 自然環境	
	5) 社会環境	
	6) 候補地の保護制度の概要	国立公園、森林生態系保護地域、天然記念物などの保護制度について整理。
4. 管理の目標と方針	1) 管理の目標	全関係者が目指す管理の全体目標を掲げる。
	2) 基本方針	全体目標を達成するため、4つの基本方針を掲げる。 1) 優れた価値の保全 2) 人為的影響の回避・軽減 3) 順応的管理の実施 4) 人と自然との調和 これに基づく具体的な取組については、後段の「5. 管理の方策」で整理。
5. 管理の方策	1) 生態系保全の方策 アクションプランと対応	「小笠原諸島全体での生態系保全」と「島毎での生態系保全」を分けて記載。 島毎の特徴に応じた長期目標を掲げ、対策の方向性を整理。
	2) 新たな外来種の侵入・拡散 予防措置	長期目標を掲げ、達成のための取組を進入経路と活動種別毎にリスクに応じた対応方針を整理。主に、各種事業、自然利用、愛玩動物の飼養、農業、定期航路など。
	3) モニタリングと情報活用の 推進	長期目標を掲げ、今後の対応方針を整理。主に、調査・事業の順応的管理、情報・技術の蓄積・更新、研究成果の活用など。
	4) 各種事業における環境配慮 の徹底	長期目標を掲げ、今後の対応方針を整理。各種事業の順応的管理、事業・調査の特性に応じた環境配慮など。
	5) 自然と共生したライフスタイルの 展開(検討中)	長期目標を掲げ、今後の対応方針を整理。主に、島民への普及啓発、子ども達への教育、自然と共生した産業振興など。
	6) 適正利用のためのルール の徹底(検討中)	長期目標を掲げ、今後の対応方針を整理。主に、エコツーリズムの展開、利用ルールの徹底、島外への情報提供など。
6. 管理の体制	1) 関係機関の連携のための体制	地域連絡会議について記載。
	2) 科学的知見に基づく順応的 管理体制	科学委員会について記載。
	3) 管理に関わる関係行政機関 の体制	関係行政機関について記載。
7. おわりに		今後にむけて。

橙網掛け : 科学委員会で特に検討頂きたい項目

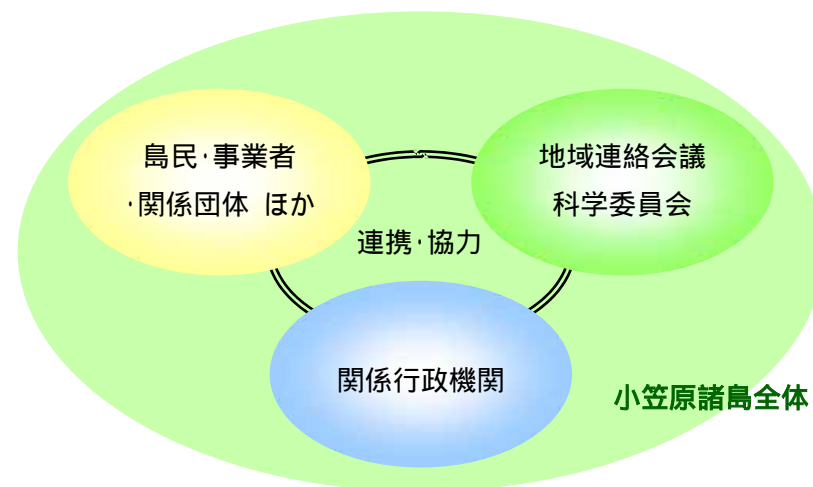
概要

「小笠原諸島世界自然遺産候補地管理計画」とは、小笠原諸島を世界自然遺産に推薦するにあたって、世界的にもたぐいまれな小笠原諸島の自然環境を未来に受け継いでいくために、関係者が行う取組について、とりまとめるものである。本計画は、適切な管理を進めるため、候補地の周辺も含めて小笠原諸島全体を対象とする。

関係行政機関をはじめ、小笠原諸島に住む島民、事業者、研究者、NPO、来島者など全ての関係者は、以下に示す全体目標のもと、連携・協力しながら、管理のための様々な取組を進めていく。

管理の全体目標

小笠原諸島は、大陸地殻を形成する元になった海洋性島弧の形成過程を示す地域であり、海洋島独自の適応放散によって進化を続けている固有種等が構成する特異な生態系を有する『地球と生物の進化の過程を記す世界で唯一の場所』である。この価値を正しく理解し、島の自然と人間が共生していくことにより、小笠原諸島の有する顕著な普遍的価値を健全な状態で後世に引き継いでいく。



なお、小笠原諸島の生態系の保全については、知見や技術などを積み重ねながら外来種の根絶に向けて取り組み、より効果的な保全対策を進めることとする。

基本方針

(1) 優れた価値の保全

海洋性島弧の形成過程を示す「証拠」の保全

大陸地殻を形成する元になった海洋性島弧の形成過程を示す証拠である無人岩や枕状溶岩などを保全する。

既存の保護制度の適正な運用

固有種・希少種、独特の生態系の保全 島毎での生態系保全(次頁)

独自の進化を遂げた多くの固有種・希少種をはじめとする小笠原諸島独特の生態系を保全するための取組を進める。

既存の保護制度の適正な運用

保護増殖や外来種排除の取組の推進

(2) 人為的影響の回避・軽減

外来種対策の推進 島毎での生態系保全(次頁)

特定の種のみを視野に入れた駆除対策ではなく、地域ごとに異なる複雑な生物種間関係に着目して関係機関が共有し、より効率的・効果的な外来種対策の戦略を展開する。

保護増殖や外来種排除の取組の推進

新たな外来種の侵入・拡散予防への取組の推進

新たな外来種の侵入・拡散のリスクについて、関係者が共通の認識を持つことが最も重要である。主な侵入経路と活動種別毎に、目標を整理し、必要な取組を進める。

緑化・建設事業：事業者に対する指導の徹底

自然利用：現在の利用ルールの徹底、各種利用ルールの統一的な案内

調査・研究活動や自然再生事業：外来種に対するモニタリング体制の確立

農業（畜産含む）活動：拡散防止に向けた情報提供・技術指導

ペット：飼いネコの適正飼養の強化、ペットの飼養・持込に関する普及啓発

定期航路：島民・来島者への外来種侵入に関する注意喚起



マイクロチップの装着



ははじ丸下船時の靴底の洗浄

(3) 順応的管理の実施

適切なモニタリングと情報の活用

各種事業の実施に伴う自然環境の変化等を適切にモニタリングし、その評価をフィードバックして、対応を柔軟に見直すという、順応的な管理を進める。

事業・調査の順応的管理と情報や技術の継続的な蓄積・更新
研究成果の活用・還元と事業との連携

科学的アプローチと合意形成

既に設置されている「科学委員会」や「地域連絡会議」の場を活かして、科学的な根拠に基づく順応的な管理を進め、関係機関・団体や島民の生活との調整を行い、合意形成を図る。

科学的見地からの事業・調査の順応的管理

島民や関係団体への情報提供・理解醸成

事業の実施にあたっての関係者間での連携の強化

(4) 人と自然との調和

自然と共生したライフスタイル

島民が、小笠原諸島の自然環境の価値と、それを未来に受け継いでいくことの大切さを理解した上で、自然の適切な保全・管理のための取組に参画しながら、自然とともにある豊かな暮らしを持続的に営むことのできる島づくりを進める。

様々な媒体・機会を通しての島民への普及啓発

ボランティアによる外来種駆除の実施

自然と共生した産業（アカギの活用等）の振興

環境教育の推進

島民や事業者に向けた情報提供、意見交換の機会を拡大する。子ども達には、小笠原諸島の自然への理解をより深める教育を行う。

子ども達への自然環境教育の推進

適正利用の推進

エコツーリズムなどの自然と共生した適正な利用を進める。

利用ルールの徹底とガイドによる適正利用の推進



ボランティアによるアカギの駆除

【島毎での生態系保全の方策】

小笠原諸島は、小さな島々からなり、島ごとに独自の発展を遂げた生態系を有している。また、島の自然と人との関わり方やその変遷も様々である。

そのため、小笠原諸島全体をみながら生態系の保全を進める一方で、島を基本単位として、ここに示した島毎の長期目標に基づき、生態系の保全のための取組を進める。特に、外来種対策にあたっては、島・地域毎に異なる複雑な生物間の関係に着目して、各事業の連携を図ることにより、戦略的に展開していく。

【聳島列島】

島名	長期目標
聳島	モクタチバナ林を中心とした生態系の維持及び固有昆虫類の安定生息 アホウドリ類3種の安定生息
北ノ島	海鳥類の安定生息 長期的な視点での、北ノ島の原植生及び生態系の回復
媒島	海鳥類の安定生息 長期的な視点での、モクタチバナ林を中心とした媒島の原植生及び生態系の回復
嫁島	海鳥類の安定生息 森林植生を中心とした嫁島の原植生及び生態系の回復



クロアシアホウドリ

【母島列島】

島名	長期目標
母島	湿性高木林を中心とした生態系の維持 モクタチバナ自然林を中心とした生態系の維持 オガサワラシジミなど固有昆虫類の安定生息 オガサワラカワラヒワや海鳥類の安定生息 アカガシラカラスバトの安定生息 陸産貝類の安定生息
向島	母島列島型乾性低木林を中心とした生態系の維持 オガサワラカワラヒワなど固有鳥類の安定生息
姉島	母島列島型乾性低木林を中心とした生態系の維持
妹島	母島列島型乾性低木林を中心とした生態系の維持 オガサワラカワラヒワなど固有鳥類の安定生息
姪島	母島列島型乾性低木林を中心とした生態系の維持
平島	長期的な視点での、平島の原植生及び生態系の回復



湿性高木林



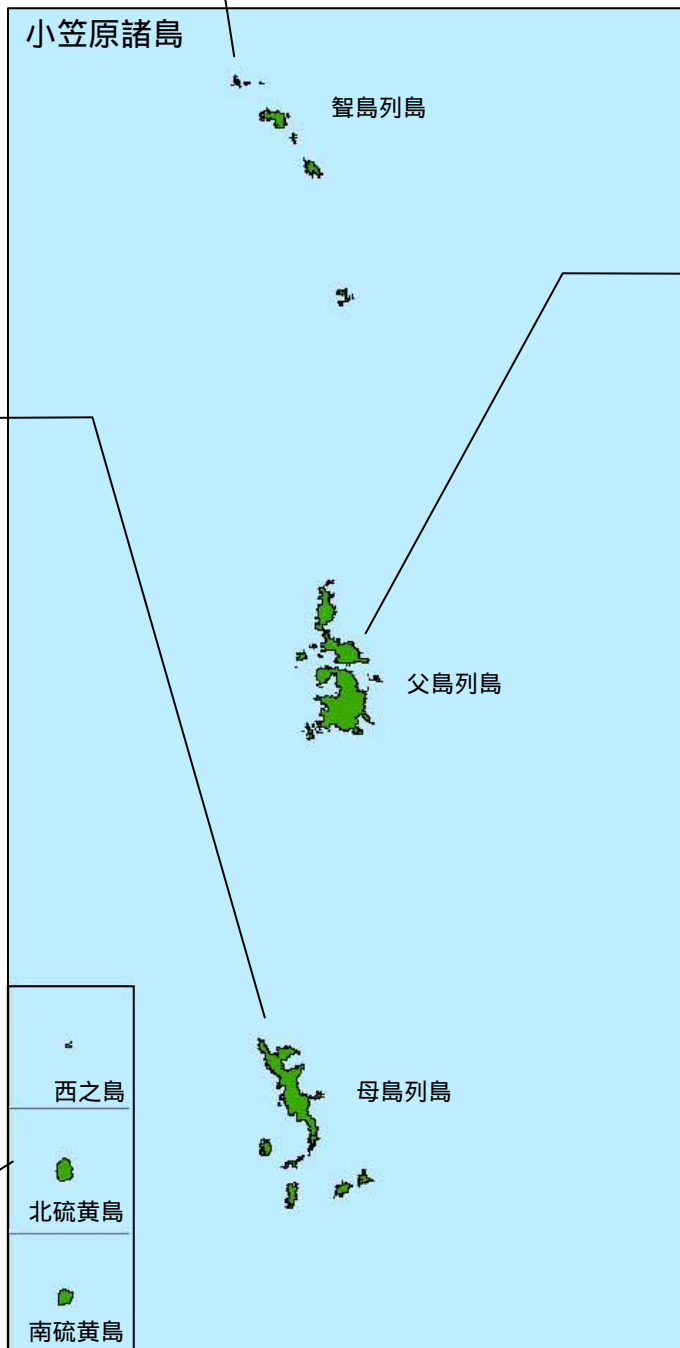
アカガシラカラスバト

【その他】

島名	長期目標
西之島	健全な生態系の維持
北硫黄島	海洋島特有の生態系の維持
南硫黄島	原生の姿を残す海洋島特有の生態系の維持



南硫黄島



【父島列島】

島名	長期目標
父島	乾性低木林を中心とした生態系の維持 ムニンヒメツバキ自然林を中心とした生態系の維持 アカガシラカラスバトの安定生息 陸産貝類の安定生息 オガサワラオオコウモリの安定生息
兄島	乾性低木林を中心とした生態系の維持 岩上荒原植生の生態系の維持及びオガサワラハンミョウの安定生息 陸産貝類の安定生息 アカガシラカラスバトの安定生息
弟島	ムニンヒメツバキ自然林を中心とした生態系の維持 固有トンボ5種など固有昆虫類の安定生息 アカガシラカラスバトの安定生息
西島	長期的な視点での、森林植生や岩上荒原植生を中心とした西島の原植生及び生態系の回復
東島	海鳥類の安定生息 長期的な視点での、海岸植生を中心とした東島の原植生及び生態系の回復
南島	海鳥類の安定生息 利用面をふまえた、長期的視点での南島の原植生及び生態系の回復



乾性低木林（兄島）



陸産貝類（キノボリカタマイマイ）